

雪の舞い散る 百里初午まつりに多数参加！

=伝統の2011年2月11日に180名=

百里初午まつりが雪に見舞われたのは、44年ぶりといわれます。松原日出夫さんの「百里物語」によると、44年前の1967年もかなりの積雪があったことが記録されています。この悪天候にも拘わらず、各地の平和の会の会員などが、続々と百里平和公園に集結、東京平和委員会のみなさん22名・栃木民医連のみなさん44名を含め、総勢約180名が参加しました。赤飯で腹ごしらえをし、甘酒、トン汁、コーヒーなど温かい飲み物に弾を求めています。

東京平和委員会の皆さんは、「茨城の人の粘り強さを感じた。」「雪の中でも沢山の人が集まっているのを見ると励みになる。」「横田基地撤去の闘いで毎月第3日曜日に座り込みをしているが、連帯してがんばりましょう。」等々、口々に話してくれました。



栃木県の医療労働者44名は、大型バスで初参加。憲法9条の誓・平和公園の「く」の字の滑走路を見て感激していました。

【寒さの中参加されたみなさん】

水野代表理事の挨拶

1954年に自衛隊がつくられました。

日本の軍隊・自衛隊はその新しい軍靴で、憲法を踏みこみながら再軍備の道を進み始めました。この時から、自衛隊に反対し、平和を願い憲法を守ろうとする国民は、国とたたかわざるを得なくなったのです。

百里への自衛隊基地設置の動きは、1956年5月に、防衛庁は百里原に航空自衛隊の戦闘機の基地を建設する計画を発表しました。その年の8月には、基地設置に反対する百里原開拓農民によって、基地反対期成同盟が結成されました。

一方、百里原を取り巻く小川町地域でも、基地設置に反対する動きが広がり、基地の設置に反対する革新団体の支援も受けて、この時期には大いに高揚して、町の流れを基地反対の方向へと変え始めました。

しかし、防衛庁は計画を断念しなかったのです。滑走路予定地反対同盟員たちが頑張っているために、滑走路建設の見通しはたちません。ところが反対闘争の中で組織問題での動きが表面化し、団結が危ぶまれるという時期がありましたが、厳しい状況の中で反対同盟と百里基地反対闘争への支援を強めようと、百里弁護団・自由法曹団・平和委員会などによる現地調査を繰り返し、新たな支援組織「百里基地」懇談会という共闘・支援の組織が作られました。たたかひの創意「一坪運動」という新しい運動が生み出され、滑走路を「く」の字に曲げさせたわけです。この記念すべき場所で、平和を願い・平和を守る戦いに取り組んでいる全国の仲間が集う、年一回の日が今日です。生憎の天候ですが大いに交流を深めたいと思います。



【東京平和委員会のみなさん】



【左：内藤弁護士、右：池田弁護士】



【挨拶する水野代表理事】

元気いっぱいな活動、

困難な取りくみを語り合おう！

県大会までに

100名の仲間を迎え入れよう！

県活動交流集会のお知らせ

とき：3月5日（土）

午後1時から5時まで

ところ：水戸市民会館 会議室

内容：100名の仲間づくりと運動の前進についての経験交流。

各班別に分かれて話し合います。

各平和委員会は、複数参加をお願いします。

【お願い】

- 「活動交流集会は、常任理事・理事はもちろん、役職に関わらず、日常活動を進めている多くの仲間参加が重要です。
- 活動の成功例だけでなく、困難な問題やうまく行かなかった事、気がついた事など、各平和の会や平和委員会の仲間の豊富な経験を全体のものとし、今後の活動に生かしたいと考えます。
- 参加を幅広く呼び掛けて下さい。
- 「仲間づくり推進員確認」のとりくみを進め、それらの経験も持ち寄りましょう。

以上

平和新聞

2011年2月15日号(火曜日)

1948号 (毎月5,15,25日発行)

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 日本平和委員会
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9平和会館
(郵送料月額120円) 電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

平和かわら版

平和新聞茨城版

No. 586

2011.2/15

発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

沖縄の基地問題を通して 「理解」すべきこと

中川宗洋（鹿嶋市在住）

私はここ数年、家族（妻と3人の息子）と共に、年1回のペースで、沖縄県名護市・辺野古を訪れ、基地建設反対の座り込みを続けている方と話をしてきた。本土の新聞・TVで報道されるようになったのはここ1~2年程度だが、辺野古では約2500日間、毎日座り込みが続けられているのである。辺野古の美しい海、そしてそこに集う方々の温かい人柄に出会うにつけ、このような状況が（当然「基地建設計画中止」という形で）1日も早く終わり、座り込みを続ける方々が平穏で「当たり前の」日常生活を送れるようになる日が来てほしいと願わずにはられない。

鳩山前総理や菅総理をはじめ、閣僚はよく「沖縄県民の理解が得られるよう努力し続けたい」と語る。また自民党の人々は「民主党が無責任な方針を示すから沖縄県民との関係がこじれた」といった批判をする。しかし、これらは言い換えれば「沖縄県民は勉強不足で、日本の安全保障について正しく理解できていないから反対するのだ」「せつかく自民党が沖縄県民をうまくだまして基地を作らせようとしていたのに、民主党が本当のことを伝えてしまったせいでダメになった」と言っているのと同じであり、沖縄県民、そして基地建設に反対する全ての人々を完全に馬鹿にした発言だと、強い憤りを感じる。

アメリカでは「多額の軍事費を削って、社会保障などの予算に回そう」という議論がようやく始まっているという。平和を作り出すのに何の役にも立たない武器・基地にかけられるお金があったら、災害や貧困に苦しむ国々への支援に回すほうが、はるかに有益なお金の使い方であるし、そういったことを率先して実行する国を攻撃しようなどと考える国はどこにも無いだろう。それこそが「国を守る」一番の近道であるということこそ、日米両政府が、そして私たち1人1人が本当に「理解」すべきことであると思う。

東部ニューギニア慰霊の旅を終えて



【ウエワク・メモリアルパーク】



大谷 志津子

（五霞町在住）

父は、昭和18年の臨時招集によりニューギニア島に渡り、昭和19年12月14日に戦病死ということでした。私が生後5ヶ月くらいのときに出兵したとの事でした。

母が元気なうちに、父が戦死した地に行きたいとかねがね考えておりました。厚生労働省で慰霊巡拝の計画があることを知りましたので応募し参加できました。

平成22年11月13日から11月20日までの8日間、全国から遺族が39名(付き添い1名を含む)参加しました。参加者は2班に分かれ、1班は東部ニューギニアのラエ、ポボンデッタ、ウエワク、マダン周辺の旧戦闘地域において現地慰霊を行い、2班はラバウル、ブーゲンビル島において現地慰霊を行いました。

私は1班に所属し、29名の方と行動を共にしました。ニューギニア島は鉄道が敷かれていないので、移動は飛行機か車です。現地の気温は11月でしたが30度を超え、常夏の島とのことでした。島には標高3,000m~4,000mの峻険な山岳がそびえ、深いジャングルが広がっていました。

慰霊の際には、車で奥地の戦場の近くまで行ってくれました。橋のない川の浅瀬を渡り、できるだけ亡くなった地の近くまで乗り入れてくれました。場所によっては、現地の警察官も同乗してくれました。参加者が家から持参した線香・写真・供物などを準備していると、どこからともなく現地の人たちが遠巻きに見守っていました。なかには、戦車の残骸や船の一部があるところに案内してくれる人もいました。日本人に対しては比較的好意

『代表理事・常任理事はこんな人』

第14回目は、常任理事・小沼 一彦さんです。



会員の皆さんこんにちは。潮来市職場平和委員会の小沼です。この度、先輩の佐藤さんのあとを継ぎ県の常任理事になりました。1958年生まれ戦争を知らない世代です。

私は今、潮来市役所の20名の仲間と平和運動を細々と行っています。1982年に入所以来、本当に良き仲間恵まれ、これまでは職員組合の活動の中で種々な平和運動の推進に参加させてもらいました。そして毎年の百里初午祭や平和大行進・平和ワインなどを心待ちにしている一人です。

職員組合時の活動を思い出し、今後も微力ながらがんばりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

共にがんばりましょう！

的であると添乗員の方が言っていました。

東部ニューギニアにおける日本軍の戦没者は、陸軍約10万8000人、海軍約6500人、近海などの船舶沈没による戦没者を加えて約12万7000人となったとのこと。これらの戦没者は、戦闘による戦死した者の外、未踏のジャングルや山岳を進攻、及び撤退の作戦行動、加えて補給途絶による食料の欠乏などにより死亡した人たちとのことでした。

私の父は、ウエワク近くのコペーというところでマラリアによる戦病死とのことでした。茹だるような暑さの中、食べるものも無く、病弊した身体にはマラリアに抵抗する術も無かったのでしょうか。27歳ということでした。父は、どんなことを思って死んでいったのでしょうか。さぞかし無念でならなかったことでしょう。

今回慰霊の旅に参加することにより、益々戦争の無意味さ、愚かさ、恐ろしさを痛感しました。

【参考：五霞町の戦没者255名のうち36名の方が、ニューギニアで犠牲になっています。】

本文は、了解を得て「9条の会ごか」より転載させて頂きました。